

## ローマ8章31－39節 「圧倒的な勝利者」

### 1A 味方なる神 31－34

1B 強力な守り 31

2B 惜しめない備え 32

3B 義認 33

4B 執り成し 34

### 2A 引き離さぬ神の愛 35－39

1B あらゆる苦しみ 35－37

2B あらゆる被造物 38－39

## 本文

ローマ人への手紙8章31節からです。私たちはついに、ローマ人への手紙の山頂部分と言ってもよいところに入ります。31節から39節までをまとめると、「私たちを引き離さない神の愛によって、圧倒的な勝利者になっている。」ということです。

前回の学びを思い出してください、ここの箇所を見るのは、18節からの流れを知る必要があります。神の相続人として、キリストと共に世界を統べ治めるのですが、共に治める前に苦しみをも共にする、ということでもあります。けれども、その苦しみは後に来る栄光に比べれば取るに足りないという話でありました。神の造られた被造物が、アダムが罪を犯す前のように贖われるのですが、それは体の贖いを受けた、キリストを信じる者たちがキリストと共に地上に戻ってくることによって実現します。キリストによる神の国の実現です。

しかし、御国が到来する前での間は、私たちはこの体にあつてうめいています。そのうめきについて、御霊が執り成しをしてくださり、私たちを神のご計画の中で着実に生きていることができるようにしておられます。そして神は、ご自分が救いの召した者たちのために、全てのことを働かせて益としてくださる計画をお持ちです。一部ではなく、全てのことを働かせてくださいます。そして、その「益」というのは、私たちが正真正銘の神の子どもになること、つまりキリストの似姿に変えられることです。そして30節ですが、神はこのことを初めから終わりまで、全てを予め計画してくださったことがまとめられています。「神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。」

### 1A 味方なる神 31－34

そこでパウロは、「31a では、これらのことからどう言えるでしょう。」と問いかけます。合計5つの問いかけをします。

## 1B 強力な守り 31

「31b 神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。」これが一つ目の問いかけですが、これは神が私たちを守ってくださっている、ということです。私たちは、何か困難や試練があると、神が自分の側についておられないのではないかと、思い悩んでしまうかもしれません。かつてヤコブは、息子のヨセフがいなくなり、シメオンもエジプトで牢に入れられました。そしてベニヤミンを連れて来いと言われていました。それで彼は嘆きます。「こんなことがみな、私にふりかかって来るのだ。(創世 42:36)」英語ですと、「All these things are against me.」となっています。つまり、「これらすべてのことが私に敵対している。」と直訳できます。このような思いになるでしょう。けれども、その思いは払拭せねばなりません。絶対にそんなことはありません。28 節にあるように、神が全てのことを働かせて、益としてくださるのです。神は、我々の味方であられるのです。

モーセが死に、ヨシュアがイスラエルを率いてカナン之地に入る時に主は言われました。「ヨシュア 1:5 あなたの一生の間、だれひとりとしてあなたの前に立ちはだかる者はいない。わたしは、モーセとともにいたように、あなたとともにいよう。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。」私たちが霊的に、ヨシュアと同じように神はしてくださっています。ヨシュアが、エリコの近くに来た時に、抜き身の剣を持っている人がいましたが、ヨシュアが、「お前は私たちの味方か、敵か。」と言ったら、この方は答えられました。「5:14 いや、わたしは主の軍の将として、今、来たのだ。」ヨシュアはその場でひれ伏しました。主は自分の味方か敵かなどという質問は実に阿保らしいものであり、そうではなく、私たちための戦ってくださる私たちの将軍であられる方なのです。私たちは、主が自分の味方になってくださるのかどうか、などと疑ったら、実に主に対して失礼です。むしろ、圧倒的な力で敵を征服してくださる将軍なる方に、私たちはひれ伏し、従うのです。

ずっと後、ユダの国にはアサという王がいました。彼が王であった時、エチオピアから何と、百万の軍勢と三百万の戦車を率いて、マレシャというところにまでやって来ました。もちろん、アサ王がこのように叫びます。「アサはその神、主に叫び求めて言った。「2歴代 14:11 主よ。力の強い者を助けるのも、力のない者を助けるのも、あなたにあっては変わりはありません。私たちの神、主よ。私たちを助けてください。私たちはあなたに拠り頼み、御名によってこの大軍に当たります。主よ。あなたは私たちの神です。人間にすぎない者に、あなたに並ぶようなことはできないようにしてください。」このように、神が味方であるなら、誰も敵対することはできないのです。

## 2B 惜しみない備え 32

32 私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子と一っしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましよう。

二つ目の問いかけは、「備え」であります。キリスト者が神を信じ、主に従っていくということは、経済的な必要が増えるような時もあります。迫害の中で、貧しくなることもあります。そのような時に、「神は自分を見捨てられたのか？」と感じてしまうようなことがあるかもしれません。その恵み

が押しとどめられてしまっているように感じるようなことがあるかもしれません。しかし、主は決してそんなことをなさいません。その証拠に、「ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された」とあります。神が御子という最高に価値のある対価を、私たちのために払ってくださいました。ゆえに、御子といっしょに、全てのものを恵んでくださいます。ヘブル書 13 章で、このような勧めがあります。「13:5-6 金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができましよう。』」

ここでパウロは、「あなたは貧しくならない」ということを言っているのではありません。むしろ、貧しくなったとしても、それでも神の恵みを知る秘訣が与えられるということです。「ピリピ 4:12-13 私は、貧しさの中にある道も知っており、豊かさの中にある道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」そして、こうも言いました。「4:19 また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてくださいませ。」

### 3B 義認 33

33 神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。

三つ目の問いかけは、「義認」であります。キリスト者は、神の恵みによって、信仰によって義と認められた者です。しかし、絶えず、「告発を受ける」「中傷を受ける」という攻撃を受けています。キリストの内に立つ、という立ち位置自体が、どれほど悪いことであるかという非難を受けます。例えば、仏式の葬儀で線香を立てなかったということが、「クリスチャンという人たちは、そのような薄情なことをするのですね。愛を説きながら、最も愛のないことを行ないますね。」と言われたりします。そのようにして、義と認められているにも関わらず、何とかしてキリスト者としての証しを無きものにしようとする圧力を受けています。この圧力はどこから来ているかと言いますと、悪魔そのものからです。「私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。(黙示 12:10)」

そこで、パウロは「選び」という言葉を使っています。神に選ばれた人々を、訴えるということは、大変なことです。その訴えている者が裁かれます。ゼカリヤ書には、帰還したユダヤ人に対して、サタンが彼らを訴えている場面が出てきます。ちょっと長いですが、該当箇所を読んでみます。「ゼカリヤ 3:1-5 主は私に、主の使いの前に立っている大祭司ヨシュアと、彼を訴えようとしてその右手に立っているサタンとを見せられた。主はサタンに仰せられた。「サタンよ。主がおまえをとがめている。エルサレムを選んだ主が、おまえをとがめている。これは、火から取り出した燃えさしではないか。」ヨシュアは、よごれた服を着て、御使いの前に立っていた。御使いは、自分の前に立

っている者たちに答えてこう言った。「彼のよごれた服を脱がせよ。」そして彼はヨシュアに言った。「見よ。わたしは、あなたの不義を除いた。あなたに礼服を着せよう。」私は言った。「彼の頭に、きよいターバンをかぶらせなければなりません。」すると彼らは、彼の頭にきよいターバンをかぶらせ、彼に服を着せた。そのとき、主の使いはそばに立っていた。」

ここに、「エルサレムを選んだ主が、おまえをとがめている。」と言っています。この選びは、一方的な神の恵みによるものであり、憐れみに基づくものです。事実、エルサレムは罪を犯し続け、それゆえにバビロンによって汚されたものです。それで、ヨシュアの祭服のように、汚れてしまっているのです。それを訴えているのがサタンです。サタンの告発には、根拠があります。事実、汚れているのですから。これがキリスト者に対する告発でもあります。事実、不完全です。事実、罪の性質が残っており、サタンが責める時にはそれは間違っていないのです。しかし、神は恵みによって、選ばれたのです。彼らが優れているから選ばれたのではなく、むしろ愛されるべきものは何もないのに、ただ愛したいから選ばれたのです。自分の愛する彼女を、責めている者がいたら、そいつの首根っこつかまえて、「二度とそんなこと言うんじゃない。」と脅して、立ち去らせるでしょう。

そして、ここで主がヨシュアの祭服を着替えさせています。不義と取り除き、きよい礼服を着させています。そのことを主は行なわれました。主は、私たちの罪を、キリストの流された血によって清めてくださいました。私たちにも、古い人を脱がせ、新しい人を着させてくださいました。ゆえに、今、私たちに対して何ら、責め立てるものをサタンは持っていないのです。先に引用した黙示録 12 章には、続けてこう書いてあります。「12:11 兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。」小羊の血です、そして自分たちの証しです。

#### 4B 執り成し 34

34 罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしてくださるのです。

四つ目の問いかけは、「執り成し」であります。33 節は、「訴える」という攻撃がありました。それはちょうど、裁判所で検察官が訴えている、告発しているのと同じです。そして罪定めというのは、まさに有罪判決を下すことであります。キリスト者は、8 章 1 節にあるように、「キリスト・イエスにある者が罪に定められるようなことは決してありません。」とあるとおりです。それにも関わらず、再び罪に定めて、救いを失わせようとする仕業を、サタンへ執拗に行なっています。しかし、主は、「今、救いに預かっている者たちを、かの日にもしっかりと救う。」ということ約束してくださっています。「ローマ 5:9-10 ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。」

イエス様は、ペテロに対して執り成しをすることによって、サタンの罪定めから彼を守ってくださいました。「ルカ 22:31-34 シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」シモンはイエスに言った。「主よ。ごいっしょになら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」しかし、イエスは言われた。「ペテロ。あなたに言いますが、きょう鶏が鳴くまでに、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」このようにして、ペテロはイエス様を三度否むという、大失敗をしたのに関わらず、彼は信仰を失うことなく、イエス様に立ち直ることができたのです。それは大きな罪であり、彼自身を傷つけましたが、それでも恵みによって彼は主の癒しの中で、教会の指導者として用いられました。

イエス様は、甦られて、天に昇られ、それから神の右の座に着いておられます。私たちの罪のために死なれただけでなく、神の右の座で執り成しをしてくださっているのです、私たちを終わりまで救うことができになるのです。私たちがつまずきそうになっても、それでも立ち上がらせてくれる力と勇気を与えてくださいます。ですから、26 節によれば御霊が私たちの心の内で執り成しをしてくださっていますが、同時に、キリストは神の右の座で執り成しを捧げてくださっています。

## **2A 引き離さぬ神の愛 35-39**

そして五つ目の問いかけと、それに対する答えですが、これはとても長いです。35 節から 39 節、最後まで続きます。ここでは、「引き離さない神の愛」です。

### **1B あらゆる苦しみ 35-37**

35 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。36 「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。」と書いてあるとおりです。

これまで見てきた、いろいろな問いかけは、とどのつまり、「神はあなたを愛していない」と暗に問いかけるような唆しでありました。もちろん、悪魔からの唆しです。そのことに対して、パウロは大胆に答えています。「キリストの愛から引き離す」のに、何が必要なのか？ここで彼が列挙しているのは、単なる思いつきではなく、彼自身が通っていた生々しい現実でした。彼が明かしているところが、コリント第二 11 章にあります。「11:23-28 彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうなのです。私の労苦は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいた



こともありました。このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。」

「患難」とありますね。これは神の愛から私たちを引き離すことがあるか？イエス様は約束されました、「ヨハネ 16:33 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」そして、「苦しみ」というのは元々の意味に「狭さ」があるそうです。どちらに行こうにも、埒が開かないようなイメージです。しかし、そこにも主が付いてくださっています。「ルカ 13:24 努力して狭い門からはいりなさい。なぜなら、あなたがたに言いますが、はいろうとしても、はいれなくなる人が多いのですから。」そして迫害です、迫害は組織的に、意図的に苦しみを与えるものであり、それから、飢えは文字通りであるし、裸は、処罰を受けて着物がはだけている状態であり、辱めを受けています。そして殺される危険であるとか、剣で殺されることを話しています。

そして 36 節は、詩篇 44 篇からの引用です。イスラエルの民が、昔、エジプトから連れ出し、約束の地に連れてくださったのも関わらず、今、バビロンに捕え移されていることを嘆いています。主がお救いになることができるのに、なぜ私たちが、ほふられる羊のようになっているのか？と訴えているのです。そして、旧約時代に限らず、今、パウロたちも同じようになっています。けれども、パウロは、神のご計画を自分の中に当てはめています。

37 しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。

まず、「私たちを愛してくださった」とあります。その愛は、十字架の上で罪の供え物となってくださったほどの愛です。そこまで愛してくださったことによって、何が起こったかと言いますと、「これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となる」と言っています。これはすごいことです。第一に、「これらすべてのことの中にあっても」と言っています。その状況から救い出されることが、勝利者ではなく、その中にあっても愛が引き離されないというところに、キリスト者の勝利があり、力があります。なぜなら、主ご自身がこれらの苦しみを負われて、その上で神のご計画を実現されたからです。第二に、「圧倒的な勝利者」であります。単なる勝利者と、圧倒的な勝利者の違いは何かと言いますと、単なる勝利者は戦って勝つことを意味します。けれども、圧倒的な勝利者とは、すでに戦っている時から、勝利が確定していることを意味します。圧倒的な物量でしょうか、また先手を打った戦略や戦術でしょうか、戦っているのですが、勝利が決まっていながら戦っているのです。これが、キリスト者の戦いなのです。

## 2B あらゆる被造物 38-39

38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るも

のも、力ある者も、39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

二つの極端を対比させながら、私たちを引き離すことのない神の愛を確信しています。初めに「死も、いのち」であります。パウロは言いました。「ピリピ 1:21 私にとっては、生きることはキリスト、死ぬこともまた益です。」そして、「御使いも、権威ある者も」と言っています。権威ある者とは、天にある権勢のことであり、悪い勢力にも使われます。つまり、神に仕える天使もいれば、神に反抗する天使たちもおり、墮落した天使です。しかし、これらの権勢も主の十字架は、亡き物にしました。「コロサイ 2:14-15 いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。」

さらに、「今あるものも、後に来るものも」と言っています。今も、神の愛は自分を神から引き離さないし、後になっても弾き離すことはありません。そして目に見えない存在から、次に目に見える被造物に移っています。「高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も」と言っています。高いところにあるものや、海の深いところにあるものをも、です。もしかしたら、これは霊的な存在も含まれるかもしれませんが、高いところにある天の軍勢、深いところには墮落した霊どもも含むかもしれないでしょう。しかし、これらのことをもってしても、「私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」と大胆に言っています。私たちに対する神の愛がこれだけ偉大なのです。

私たちの周りにはあるものは、いずれ神とキリストご自身にひれ伏すこととなります。これらが私たちに敵対しようとも、神ご自身が従わせ、征服しておられます。「黙示 5:11-13 また私は見た。私は、御座と生き物と長老たちとの回りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍であった。彼らは大声で言った。「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。」また私は、天と地と、地の下と、海の上のあらゆる造られたもの、およびその中にある生き物がこう言うのを聞いた。「御座にすわる方と、小羊とに、賛美と誉れと栄光と力が永遠にあるように。」